

新製品・新技術特集の発刊に際して

技術戦略推進室長

池田 和史

Kazufumi Ikeda

新年あけましておめでとうございます。日頃より三菱重工技報を愛読頂き有難うございます。本年も皆さんの将来・未来を実現するイノベーションの創出に皆さんと共に邁進して参ります。引き続き宜しくお願い申し上げます。

さて、本号は新年幕開けの企画として新製品・新技術特集号としました。三菱重工グループの取組みの一例として 16 件の論文を紹介します。編集作業を進めるなかでふと振り返ると、昨年も大いに成長の一年でした。特に、デジタル・AI 分野は進化のスピードを益々加速させ、日常生活への浸透を感じます。そして、このデジタル・AI 環境に最適化されてパフォーマンスを高められたハードウェア群への期待もまた、高まっていると感じます。従来は独立して動作していたハードウェア群をデジタル・AI 環境の上で最適に連動させ、社会・産業・生活などをエコシステムへと変革していく。当社グループは、自ら積み重ねてきた多くの製品群と広範囲の技術群での知見を活かして、この期待に応えていきます。

将来・未来に向けて今年をどのような一年にしようかと考える中で、ふと後輩の皆さんのことを思い浮かべました。将来・未来を象徴する存在でもありますし。

後輩の皆さんはどのような将来・未来の世界を思い描いておられるでしょうか？ 様々な世界を思い描き、そのいずれもが私の想像よりはるか高みを目指しておられることだろうと思います。将来・未来の話ですから、私が後輩の皆さんと問い掛けるべき範囲は、現時点の当社グループ社員にとどまらず、当社グループ外でも志を同じくする多くの皆さんも含まれる可能性もあります。そのように多くの個性と可能性に溢れる皆さんが協力・連携することで、更に別次元の姿を生み出し、その可能性は無限だろうと思います。その無限の可能性の一つひとつ全てを実現する計画を準備し、実行していくことは大きな挑戦です。一方、当社グループの技術基盤は、多くの製品群と広範囲の技術群で構成され、これらの組み合わせによる製品・サービスの創出もまた無限です。将来・未来の挑戦を実現するポテンシャルがあります。昨年同様に今年も、当社グループは技術基盤をより広く、より高めて参ります。

当社グループは、誰も予測できなかった将来・未来の事象の予測を可能とする技術に挑戦すると共に、逆に、全ての予測・予想・評論を裏切って、そのはるか上をいく新しい社会・産業・生活を実現する技術に挑戦して参ります。本号で紹介する 16 件はその種となる、ほんの一例です。今後とも引き続きのご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。